

しょうをつんでだいとなす

積小為大



豊川市立東部小学校
校長室だより

令和2年8月号

夏休みが終わり、学校がはじまりました

4月5日が臨時休校だった関係で、今年の夏休みは約2週間しかありませんでした。短い夏休みを終え、8月17日に学校が再び始まりました。学校に再び元気な子供たちの声が戻ってきました。

17日には放送で全校集会を行いました。校長講話では(1)新型コロナウイルス感染症について(2)熱中症に気をつけること、そして(3)15日に75回目の終戦記念日を迎えた太平洋戦争の話をしました。

戦争を体験した世代が高齢になり、児童たちにとって直接話を聞く機会がほとんど無くなってきました。75年前までは日本は戦争をしていて多くの人が亡くなったこと。中国、東南アジアの国々や太平洋の島々での悲惨な戦争の状況。沖縄での民間人を巻き込んだ地上戦。全国の都市が空襲を受け、豊川市も8月7日に海軍工廠の爆撃を受けたこと。広島と長崎に原子爆弾が落とされたこと。これらは忘れてはならないことですし、小学生でも学年に応じた理解で良いので知ってほしいことです。そして、それらを通して、平和や自分の生き方を考えてほしいと願います。



猛暑が続いています、熱中症に注意を

7月は長梅雨で、毎日のように雨が降っていましたが、8月になってからは暑い日が続いています。特に学校が始まった17日からの1週間は異常なほどの暑さで、17日には浜松市で41.1℃を観測しました。教室はエアコンをフル稼働しているものの、校舎そのものが熱くなっており、なかなか涼しくなりません。給水の指示をし、WBGT(熱中症指数)を調べて、危険を示す場合には体育の授業や校庭での運動も禁止に

しています。心配なのが登下校です。特に下校時は大変暑い時間帯です。低学年は残りを計算してお茶を飲むことも難しいので、帰りには水筒が空になる子もいます。足りない児童はペットボトルなどに予備の水分を用意することも必要です。日傘をさして登下校する児童も増えてきました。帽子だけより、頭の温度は下がるようです。

まだまだ暑さが続きそうです。学校でも家庭でも、熱中症に気をつけて過ごしましょう。

災害用マンホールが設置されました

災害時、東部小学校が避難所になった場合に断水や停電でも使用できるマンホール型トイレの工事が夏休み中に行われました。正門を入った職員駐車場にあります。使用するような場面が無いほうがうれしい施設でもあります。いざという時の備えです。



感染者差別は人として悲しい事です

部活動の寮生活でクラスターが発生した学校に多くの嫌がらせの電話やメールが届いたり、感染者が判明した大学に通っているというだけで学生がバイトを辞めさせられたり…。相変わらず感染者や所属する集団への言われなき攻撃、誹謗中傷、差別のニュースが伝えられ、心を痛めています。

今や感染の恐怖は、疾病としてのコロナウイルス感染症そのものへの不安以上に、感染した場合の世間の声、周囲の目(場合によっては報道やネット上のコメント)等への不安が大きくなっている気がします。

正体が分からないものへの不安が、自粛警察や感染者差別のような異常な攻撃性につながっているとの心理学者の指摘もあります。(裏面に続く)

丸太ランドの土管を埋めてもらいました

校庭の南東に、大きな楠をはじめとする木々に囲まれた場所があります。「丸太ランド」と呼んでいます。そこにある小山に土管（コンクリート製なので正しくはヒューム管）のトンネルがありました。私が東部小に来た時には、トンネルの入り口に「危険、入らない」の表示があり、遊び場としては使えなくなっていました。私が無理に入ろうとすれば入れる状態であったので、石や丸太を集めて穴を少しずつ塞いでいました。

この度、マンホールトイレの工事で出た残土を使って、トンネルを埋め、その付近の整備もしていただきました。安全に、楽しく遊ぶことのできる場所にしたいです。



校内消毒のスクール・サポート・スタッフが配置されました

学校再開から毎日の授業後に校内の消毒作業をおこなっています。当初は各教室やトイレ、手すり、ドアノブ、水道の蛇口など、作業に45分近くかかっていました。使用する薬剤の見直しや手順の変更で多少は楽になったとはいうものの、通常の業務に加えてのことで、担任にとっては負担でもありました。

夏休み明けから、コロナ対策緊急予算が付き、スクール・サポート・スタッフを任用して消毒作業をしていただいています。1日3時間、1週間で2名で分担してもらっています。授業時間中の作業なので、教室の中は引き続き担任が行いますが、大幅な業務の軽減が図られ本当に助かっています。スタッフさんには暑い中での作業をお願いすることになります。熱中症には十分気をつけて作業をしていただきたいと思います。

文責（校長 金澤哲哉）

子供たちには、集会などで事あるごとに、「マスクや手洗い消毒、3密の回避などの感染症対策」を呼びかけると同時に、「正しい情報を得て、必要以上に恐れられたり、噂に振り回されない事」「どんなに気をつけていても、誰もが感染する可能性はあるのだから、もし、感染する人がいても、差別したりしないこと」を伝えています。

この件について、8月25日付で**文部科学大臣から緊急メッセージ**が発表されました。「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」との内容で、児童生徒向け、学校関係者向け、保護者や地域向けの3種のメッセージです。教育委員会を通じて学校に届き次第配付しますので、お読みください。

豊川鉄道物語～踏切からみえた風景～

校区に住む、元教員の鈴木明良（ペンネーム有我忍）さんが校長室を訪れ、標題の冊子を寄贈してくださいました。8月4日の東愛知新聞にも写真入りの大きな記事で紹介されていたものです。多才な鈴木さんは低学年の生活科の地域講師として「アキラ150」の名でマジックを披露して下さっています。

記事と冊子の内容によりますと、司馬遼太郎の小説「峠」に感銘を受け、主人公河合継之助が長岡藩の家老として仕えた牧野家のルーツが、本校校区の牧野町や牛久保にあることから史跡巡りをしたそうです。その時に、飯田線の踏切に「城跡」「中屋敷」など、旧牧野家、牛久保城に関する名前を見つけ、踏切名にも興味をもったとのこと。JRの踏切には全て踏切名が大きく書かれており、市内の踏切を自転車と徒歩で巡った様子が書かれています。豊川鉄道（現在の飯田線）の歴史や、海軍工廠の拡張と豊川市の誕生、幻の西豊川駅などのことも書かれています。巻末には踏切めぐりのワークシートも着いています。興味を持たれた方は、学校にお問い合わせください。

